

令和 7 年度 豊橋市民センター
指定管理事業報告書

特定非営利活動法人リシュ

◆指定管理業務名・目的

1. 業務名
豊橋市民センター・市民活動プラザの管理運営業務
2. 事業の目的
豊橋市民センター条例に基づいた市民活動団体の公益的な活動支援、事業計画書の運営方針、基本方針に基づき指定管理者として①～④に努める。
 - 1 市民活動経験者の増加
 - 2 市民活動情報の受発信拠点としての役割を果たす
 - 3 「協働」の拠点としての位置づけを確立する
 - 4 市民の側に立って行政や企業に伝える「かけはし」としての役割を果たす
3. 実施期間
令和7年4月1日～令和8年3月31日

◆豊橋市民センター・市民活動プラザ

管理運営業務実施内容

豊橋市民センター

1. 会議室の予約、利用許可、清掃業務
予約管理システムの運用、利用許可証の発行・集金、利用データの入力・管理・会議室利用後の清掃等
2. 施設の維持管理
施設や備品に関する点検・保全・在庫管理・施設の施錠・非常時の対応

市民活動プラザ

1. 情報の収集・提供業務
 - 1 「どすごいネット」の管理運営、登録団体の入力作業、サイト利用操作方法の説明など
 - 2 豊橋市民活動プラザのHPの作成・維持管理
 - 3 メールマガジン及び情報誌等の発行
2. 活動場所の提供業務
 - 1 談話室の予約受付、貸出し等利用申し込みの対応
 - 2 印刷機器等設備の利用に関する事務
3. 意識啓発・普及業務
 - 1 意識啓発活動の実施
 - 2 啓発チラシパンフレット等の作成・更新
4. 人材育成・交流業務
 - 1 人材育成のための研修会を企画・運営（スキルアップ講座など）
 - 2 市民ボランティア活動団体の交流機会を増加するネットワークを構築
5. 相談・連絡調整業務
 - 1 市民ボランティア活動に関する市民からの相談窓口としての機能
 - 2 NPO法人認証取得のための相談への対応

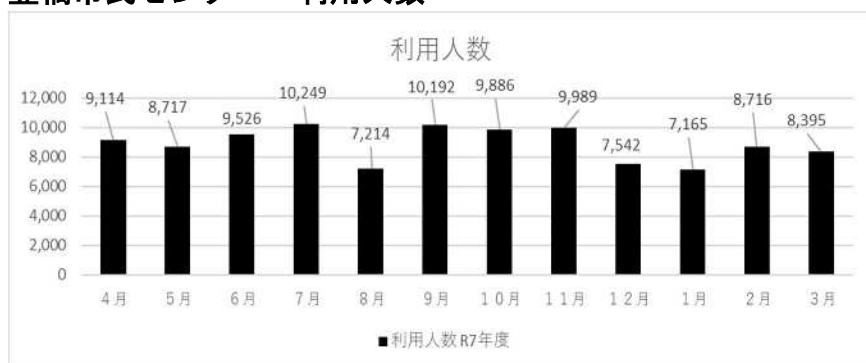
◆豊橋市民センター・市民活動プラザ

豊橋市民センター 利用率



年間を通してリピーターに支えられ一定の利用は確保されています。年度初め・秋口は企業や市民団体の活動などが活発になったり、新たな利用者で利用が増加しました。

豊橋市民センター 利用人数



コロナ以降、5月連休・夏休み・冬休みについては、家族で過ごす傾向が強くなり、市民団体の企画する講演会や企業の研修会がとても少なくなりました。通常月に関しては、リピーターが多くなり安定した利用率を保て、大きく減少する月はありませんでした。

豊橋市民センター イベント

イベント名：カリオン春まつり（作品展＆音楽会＆文化体験）

日時：令和8年3月14日（土）～15日（日）

場所：豊橋市民センター・カリオンビル

作品展：1階ロビー・2階市民活動プラザ

音楽体験：「ギターを弾こう」の皆さんに依頼し、演奏会を開催

参加：入場者数：320人

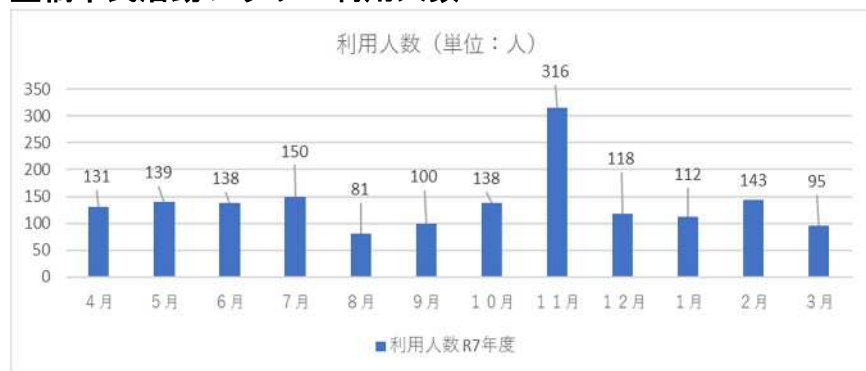
今年度も来館者の皆さんが見やすく、ゆっくりと閲覧できるように1階での作品展開催としました。昨年同様今までご存じでなかった会議室利用者も興味深く展示を見られ、作品を出展しているグループの方と一緒にいられた時などには、興味深く質問をしたりして交流を楽しんでおられる姿が見られました。

出展者の皆さんも、お友達とご一緒に来館され、談笑されていらっしゃいました。

トイレ利用のみで来館される方も見えますが、ほとんどの方が、利用後展示を見ていかれたので、人の動きのあるところでの開催の効果を実感しました。

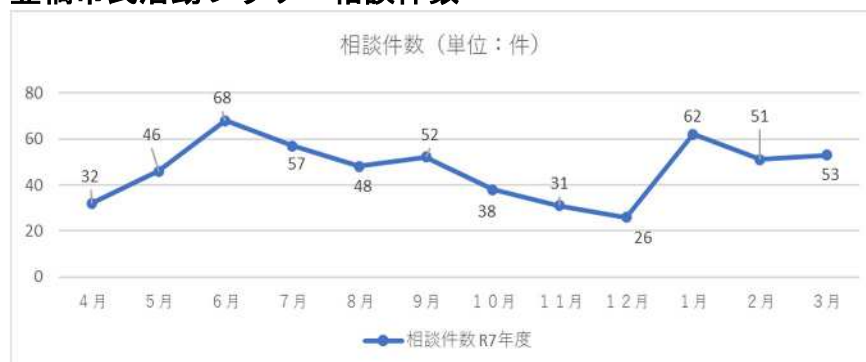
出展団体の交流会もかねて市民活動プラザで演奏会を行いました。皆で一つになって歌ったり談笑することで、次回への意欲の向上につながりました。

豊橋市民活動プラザ 利用人数



会議や印刷による来館が増えました。社会福祉協議会登録の団体で、印刷枚数の多い団体はアイトピアで印刷できないので、市民センターで受け入れ、印刷されています。また、ボランティア資料の閲覧等も増えました。

豊橋市民活動プラザ 相談件数



学生からのボランティア参加相談が多くなりましたが、ピンポイント参加希望が多く、紹介先に苦慮しました。団体からの相談は会員増強と補助金に関する問い合わせが多くありました。

豊橋市民活動プラザ（どすごいネット）登録団体数
令和7年度登録団体数 494団体

◆市民活動促進のための実施内容

スキルアップ講座

「ボランティア養成講座」

日 時：令和7年11月8日（土）13：30～15：30

場 所：豊橋市民センター 4階 中会議室

内 容：想いを実現するための市民団体の資金調達方法を学ぶ講座
気持ちを同じくする多くの支援者とながり、継続した支援のための資金調達について、多くの法人・団体を運営されてきた「横井利明氏」を講師に迎えて学びました。参加者からの質問も多く、満足度の高い講座となりました。

講 師：横井利明 氏 （名古屋市 市議会議員）

参加者：15名

「パソコン講座」

日 時：令和7年4月5日・5月10日・6月7日・7月5日・8月2日・9月6日・10月4日・11月1日・12月6日・令和8年1月10日・2月7日・3月7日（全て第一土曜日）全12回 13：30～15：00

場 所：豊橋市民センター 2階 市民活動プラザ

内 容：オフィスサポート会長村松史子氏を講師に迎え、個々のレベル・ペースにあった指導を行っているため、リピーターも多く参加者の講師への信頼度も厚い講座です。

参加者：53名

「NPO支援 ボランティア団体ひとづくりまちづくり応援 団体が輝くとき」

「カリオンキャラクター声優オーディション」

日 時：令和7年8月17日（日） 13：30～17：00

場 所：豊橋市民センター 5階 大会議室

内 容：自身の書いたキャラクターをカリオンの新しいキャラクターとして使ってほしいと市民団体所属のクリエイターが提供していただいていたところに、声優のボランティアグループがカリオンのためにできることがあればと相談があったため、キャラクターに声を吹き込み動画にしてカリオンの周知をはじめとして団体紹介につなげるなどしてまちづくりに貢献できないかと提案したところ、両者とも快諾していただけたので、団体の力を活かした事業を始めました。

準備を重ね、この日声優オーディションを開催しました。

この日オーディションに参加した皆さんは、多種多様な経歴を持ち、それぞれの想いをお話になった後オーディションに望まれました。誰もが自分のことで何かに貢献したいと思っていることが強く感じられるオーディションでした。最後に参加者全員で撮った写真は、皆さんとても良い笑顔で一日で仲間となり得たように感じられました。その後は、選ばれた5人がキャラクターを演じ、YouTubeでの動画配信もかきました。今後の新たな展開も参加者から提案されているため、順次進めて、多くの市民が関わる事業として発展していけたらと考えています。

審査員：渡辺よしお氏（FMとよはし）、浅井響（声優）、兵藤市民協働推進課長、青柳きよ氏（クリエイター）、吉田典子（市民センターセンター長）

参加者：80名

若者に市民活動への参画を促す取組

「こころと身体の声を聴く講座」

日 時：①令和8年2月21日（土） 13：30～15：00

「私の感情・感覚の現在地を知る」

②令和8年2月28日（土） 13：30～15：00

「じぶんと対話、境界線の再認識」

③令和8年3月7日（土） 13:30～15:00

「自己尊重と『私らしさ』を生きる」

場 所：豊橋市民センター 4階 中会議室

内 容：近年若い世代がボランティア活動を始めたいという申し出があった時に、心に病気を抱えていると言われる若者も少なくないことから、市民活動始める前に、自分と向き合い、活力を得て市民活動への一歩を踏み出していただける講座を3回の連続講座で行いました。参加者ひとりひとりが自分と向き合い、自分を解放できる場所・ときの見つけ方を学びました。学んだ皆さんが、今度は誰かのために場所やときを支援者として関われる機会が訪れることを願って終了しました。

講 師：鵜目ゆか氏（アーティスト）

参加者：29名

団体交流会

日 時：令和7年7月3日（木）18:00～19:30

場 所：豊橋市民センター 2階 市民活動プラザ

内 容：オレンジフェスタ協力団体中心に団体の意見交換・交流会を実施しました。

参加者：30名

オレンジフェスタ

日 時：令和7年9月28日（日）10:00～15:00

場 所：豊橋市民センター全館、松葉公園

内 容：市民活動団体が一堂に会し、活動を紹介・体験していただけるようにブースを設け出典し、多くの市民と交流出来る機会となりました。また、今年も市主催のまちなかの事業との共催により、市民活動と出会う機会のなかった多くの来場者にボランティア活動を知るきっかけを提供しました。4名の大学生・40名以上の高校生ボランティアの参加により、活気が出て、受け入れる市民団体との交流が互いに有意義な体験となったと喜ばれました。会場は、カリオン全体と松葉公園の2カ所をつなげて行いました。

新しい取り組みとして、高校生ボランティアにすべてのボランティア団体を体験してもらいたいと思い、こちらで編成した（つまりは高校生同士、学校も違い、年齢も違うアットランダムな）グループで1時間ごとに移動してもらう導線をつくり、日頃出会わない新しいボランティア団体の活動に触れてもらう機会としました。このことで、高校生からは、「楽しく関わられた」「初めて知ったことがいっぱいあった」「こんな体験初めて」「また来年も参加したい」など、嬉しい感想をたくさんいただきました。また大学生には、ブースを預けたり、高校生を導く役割を担ってもらいました。こちらも楽しく参加できたとの感想をいただきました。多くの学生が、来場所に話しかけ、子ども連れの親子に楽しくボランティア活動の説明をしている姿に感謝の気持ちでいっぱいになりました。それぞれの活動を初めて知り、市民活動が身近に感じられたと多くの来場者からお声がけいただきました。

終日イベントの中で、参加団体も各ブースをまわり、いっそう交流が進んだと感想をいただきました。互いを知る一体感のある良いイベントとなりました。

☆オレンジフェスタ内でハローボランティア事業を開催☆

○秋のカリオン収穫祭・まちなかハロウィン共催

内 容：市民センター職員手作りのスタンプラリーの実施

※市主催まちなかスタンプラリーも同時実施

参加者：3,100名

カリオンライブラリー

～まちづくりのための選書ライブラリー～

場 所：豊橋市民センター 2階 市民活動プラザ

内 容：地域活性のプロが仲間とともに選書して下さった100冊を若者から高齢の方までの皆さんが気軽に立ち寄り、願うまちをつくり合うために活用していただけるライブラリーを目指して設置。選書は木下齊氏。100冊の地域課題解決へのヒントとなりえる本を展示し、市民の学びと交流の場になり得るようなライブラリーということが少しずつ周知され、利用者が増え、ゆっくりと読みたい本を楽しめる方が来館されるようになりました。

「カリオンの円卓」輪読会①

日 時：①令和7年5月27日（火）19:00～21:00

②随時、それぞれが企画するまちづくりの会へ誘い合い参加

場 所：①豊橋市民センター 2階 市民活動プラザ

②各企画場所

内 容：今後のまちづくりの課題を見据え、活動について話し合いました。

参加者：①10名

②各会ごとに2～3名

「カリオンライブラリー」輪読会②

日 時：令和7年4月25日・5月21日・6月18日・7月16日・8月22日・

9月24日・10月24日・11月21日・令和8年1月16日・2月18日・

3月18日

場 所：豊橋市民センター 2階 市民活動プラザ（カリオンライブラリー）

内 容：ライブラリーの本・関連選書による輪読会 毎回活発な意見交換をおこないました。また、現在の社会や、市民生活についても情報交換する場となっています。

参加者：77名

◆情報の収集と提供

1. 情報誌「カリオンレポート」の発行

隔月発行：令和7年5月・7月・9月・11月・令和8年1月・3月 計6回

毎回登録450団体ほどに送付

市民センター開館情報と共に、講座、各団体情報、イベント・助成金情報等について詳しく発信しました。

特に東日新聞のWAVE欄の紹介、カリオンライブラリーの本の紹介などを継続して掲載しました。3月号から電子発行となりました。

2. 市民活動プラザホームページ管理

施設の紹介・助成金情報・イベント紹介など様々な情報を発信している。「問い合わせ」欄を使ってメールでの問い合わせ、相談を受け付けました。

特に助成金情報は、常に最新の情報を掲示し、市民活動団体の方々に役立つ情報を発信しました。



3. Facebook・メール・Instagram配信の運用

さまざまなネットツールを使い、市民活動団体に役立つ情報を配信。時代に合わせたツールを使うことで、若者の市民活動団体などにも響くように配信ツールを使い分け、スピード感をもって配信しました。

Facebook については、情報の配信タイミングを逃さないように気をつけ、
 インスタグラムには、どすごいネット登録団体の活動の情報を積極的に配信し、加えて国や県の
 有益な情報なども配信に心がけました。
 インスタグラムのフォロワーも増加し、配信を見たという参加者も増え、成果が出ています。

4. 東日新聞「WAVE」掲載・FM とよはし生出演

東日新聞と提携して、毎週土曜日の新聞に「WAVE」のコーナーで市民活動団体の紹介や、
 イベントの紹介を行いました。また生の声での発信の効果をねらい、毎週火曜日 11 時過ぎに
 FM とよはし「おれんじじゅうす」への出演も同時に依頼し、ボランティア情報の発信コーナー
 として活用いただきました。今年度も昨年以上に掲載依頼が多くあり、広く有効な広報と認識
 されました。また、新規登録団体の早期周知もかねて、FM とよはしへの出演を依頼しました。

5. 情報閲覧コーナーの活用促進

市民センター 2 階にある情報閲覧コーナーの情報を整理し、常に新しい情報の掲示に努めまし
 た。市民の方やボランティア団体の方々が閲覧しやすいようにしたことで、2 階利用時に自
 分の団体の情報を加えるために来館される団体も多くなりました。また他団体の情報を参考に
 し、互いにつながる団体がありました。個人ボランティア希望者がゆっくりと閲覧し希望団体
 を決める一助ともなりました。
 階段横の壁には、WAVE 記事を見やすく掲載順に掲示しています。

6. 東三河市民活動情報サイトの活用

どすごいネットを利用し、講座・セミナー助成金などの情報を発信しました。

◆施設管理に関する事項

1. 設備点検・修繕の記録

○点検実施、◎年次点検、▲修理

項 目	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1. 清掃業務	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2. 警備業務	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3. 冷暖房設備保守			○			○			○			○
4. テレビ共聴設備保守										◎		
5. 洋鐘保守					○						○	
6. 消防設備保守				○						○		
7. 電気工作物保安全管理	○	○	○	○	○	○	○	◎	○	○	○	○
8. エレベーター保守	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
9. 受水槽清掃業務						○						
10. 廃棄物処理業務	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
11. 公共建築物定期点検業務												◎

2. 防災・火災訓練

項 目	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1. 日常点検		○		○		○		○		○		○
2. 火災・地震訓練				○								○

火災・地震訓練・・・各訓練ともスタッフ全員が参加。管財、点検業者と共に訓練実施しました。

◆令和7年度のまとめ

事業運営についての評価と反省点

【豊橋市民センター】

会議室の利用状況については、リピーター利用が多く、また新規顧客も増加しました

公共施設として、快適にご利用いただける目標を維持しながら、電気料金が高額にならないように、温度調節を職員全員で取り組み、利用者の快適さの維持と電気料金の抑制を両立することに努めました。利用時の清潔で快適な空間を維持するため、清掃業務については特に使用後の各部屋の清掃とトイレの清掃について職員一同しっかり通り組みました。30年以上も経っている施設とは思えないと言ってお客様が何名も見え、嬉しい限りです。ただ、3階と4階のトイレが和式のままであることについて、お客様からのクレームが続いています、

窓口対応については、昨年以上に職員がマニュアルを厳守し、利用者にとって心地良い対応を心がけ、また公平性を持って接することが出来ました。確認書については利用者と職員が丁寧にコミュニケーションを取りながら記入を依頼することで、信頼関係を築きながら運用しています。そしてカフェを通じて利用者との会話が広がり、職員と利用者という垣根を越えて様々な話をすることで、コーヒーの香りと共にあたたかな雰囲気を利用する会議室等へ届けることが出来、お客様との会話も増えています。お帰りの際に「ありがとうございました。また次回もよろしくお願いします。」と利用者の方々からお声を掛けられることは、ひとりひとりの職員にとって、とても嬉しく業務への大きな励みになっています。

【豊橋市民活動プラザ】

市民活動支援に関しては、広報支援としてFMとよはしや東日新聞のWAVE、Instagramなど、特に新規で登録された団体などには、こちらからの声かけを積極的に行っています。今年度も活動団体の方からの申し出も多くなりご活用いただいています。また、運営上のちょっとした困りごとから団体解散まで、「とにかくここに聞けば教えてもらえると思って」とお問い合わせいただけた、相談事業についてもご信頼いただいているものと考えています。そして豊橋市市民協働推進補助金については、全ての応募者の相談にのり、的確なアドバイスを心がけ、応募企画が採択になるよう支援いたしました。今年度は、つつじ補助金への申請が多く、それはつまり、活動を新たに始めようとしている方が多くいらっしゃるということに加え、「トヨッキー基金・市民協働推進補助金」のことが多くの方に周知され、有効な補助金であると理解されていることにほかなりません。相談を受けながらとてもうれしく思いました。カリオンライブラリーを起点とした人づくりについても「輪読会」メンバーが今後は外への広がりを目指してアウトプット活動をしていくことになり、市民活動の推進に繋がる活動として新しい視点で期待できます。

「オレンジフェスタ」では、豊橋善意銀行のご協力を得て、40名余の高校生ボランティアが参加し、加えて4名の大学生もボランティア参加が叶い、高齢化の進む市民活動団体を援助し活躍しました。今年度の高校生ボランティアをグループ分けし、1時間ごとに移動する体験型ボランティアは非常に好評でした。また昨年同様まちなか事業とも共催出来、多くの来場者に団体のことを知っていただきました。講座については、多様な顔ぶれの講師を招くことができ、参加者同士で目指したい形を共有する取り組みを実施することで、活動者の良い気づきと出会いの場となりました。

さらに今年度は、新たにキャラクターを通して市民活動者をつなげ、多くの市民を巻き込み、YouTubeの動画配信を行いました。

* 広報に関する取り組み

具 体 的 手 法	評価
ホームページ	A
Facebook	A
メール	A
カリオンレポート	A
チラシ・ポスター配布	A
Instagram	A

* 施設利用の促進に対する取り組み

具 体 的 手 法	評価
電話問い合わせに対して丁寧な説明	A
次回の利用を促すよう、空き部屋情報を各団体来館時に紹介する	A
公共施設として、施設・備品利用について確認書を作り理解を得る	A
利用料金についての丁寧な説明	A
清掃をきちんとし、清潔感を感じられるようにした	A

* 市民活動団体の育成・支援に対する取り組み

具 体 的 手 法	評価
相談事項に対して細やかな対応、連絡、紹介	A
市民団体の情報の整理と掲示	A
ハローボランティアへの講師依頼	A
NPO 法人、市民団体設立の相談事業	A
市民団体の広報に対する支援（FM とよはしと新規Instagram）	A

1 年間を振り返り

コロナ禍以後、活動者の高齢化や会員減少はとどまるところを知りません。意義ある活動の継続支援は多様なものが求められています。今年度は、今までの活動者より、より若い世代の団体が多く立ち上がりました。ただ、活動資金については潤沢ではなく、活動継続のための資金調達は今後の大きな課題であると考えます。広報事業である「FMとよはし」と「東日新聞のWAVE」を依頼するにあたり、活動者がとても積極的に取り組まれ、掲載団体として活用していただいていると実感しています。また更に担当者が団体への丁寧な対応を心掛け、団体担当者との信頼関係が構築され、大きな成果となっています。主に窓口業務を担う職員も同世代の活動者の活躍を目にして関心がまし、団体について深く学習するようになりました。今年度のオレンジフェスタも、まちなかイベントと連携出来、スタンプラリーを楽しむ親子も多数来館し、団体と長時間笑顔で話し込む姿は、まちづくりに携わるものとしてとても幸せな光景でした。多くの方に多様な市民活動を知っていただく機会の貴重さを感じる瞬間でした。また今回も、高校生・大学生がボランティアとして多人数参加していただけたことにより、活動の中心を担う高齢世代の方々からは、今年もたくさんの思いが伝えられたと高評価いただきました。今後も、市民の皆様にとってより良い「機会」の提供と、的確な活動支援を行えるセンターを目指します。また職員たちの積極的な支援行動は、今後も継続するよう働き方も含め努力してまいります。

収支決算書（令和 7 年度分）

（単位：円）

区分		金額	内容
収入 決算	指定管理料	28,449,864	
	利用料金	8,598,200	
	自主事業収入	269,560	カフェ事業収入
	その他収入	171,955	
	還付金	0	
収入合計		37,489,579	

区分		内訳	金額	内容
支出 決算	1) 人件費	人件費	21,207,575	
	2) 需用費	消耗品費等	770,823	
		光熱水費	3,578,584	
		雑費	146,300	
	3) 役務費	通信運搬費	463,090	
		手数料	42,240	
		保険料	21,440	
	4) 委託料		6,402,000	
	5) 賃借料		603,861	
	6) 事業費		680,595	
	7) 研修費		3,190	
	8) 定期点検費		0	
	9) 公租公課		4,185,300	消費税他
	10) 一般管理費		1,183,304	
支出合計			39,288,302	